

“割れ窓理論” って知っていますか？

割れ窓理論（Broken Windows Theory）とは、軽微な犯罪や無秩序な状態を放置することで、より深刻な問題や犯罪が引き起こされるという社会学の理論です。

1. 小さな問題の放置:

例えば、建物の窓が割れたまま放置されると、その建物が無秩序な状態にあると認識され、さらなる破壊行為や犯罪を招きやすくなります。

2. 悪化の連鎖:

小さな問題が悪化すると、地域住民のモラルが低下し、犯罪に対する抵抗感が薄れ、結果的に凶悪犯罪が増加する可能性があります。

3. 早期対処の重要性:

小さな問題に早期に対処することで、悪化の連鎖を断ち切り、地域の安全を保つことができるとされています。

あなたの施設、メンテナンスできていますか？

- 「メンテナンスをしたいけど、お金がかかる…」
- 「これくらいなら、まだ修理しなくても大丈夫！」
- 「建物のあちこちが古くなってきて、どこから手を入れればいいのかわからない…」

そんなお悩みを感じていませんか？

💡放置が招く5つの悪影響

1. 老朽化の加速

小さな不具合を放置すると、建物全体の老朽化が進行し、修繕コストが大きく膨らみます。

2. 企業イメージの悪化

外観や設備が老朽化すると、訪問したお客様や取引先に「信頼できない会社」という印象を与える可能性があります。

3. 社員のモチベーション低下

壊れた窓や汚れた空間は「管理されていない職場」という印象を与えます。その結果、社員の仕事への誇りや意欲が失われ、生産性の低下を招くことも。

4. 安全性の低下

壊れた設備や不具合を放置すると、事故やケガなどのリスクが高まります。

5. コストの増大

小さな問題を早めに対処することで、大きな修繕を防ぐことができます。メンテナンスを怠ると、結果的に高額な改修費が発生することも少なくありません。